

平成 30 年度社団実績報告書

1 事業概要

一般社団法人まちづくり伊達は、「伊達地域まちづくり活性化事業」の業務委託を伊達市から受け、地域の活性化を目指し地域の資源を活用した新たなまちづくり事業を展開するため、官民連携のまちづくりを基本に、伊達長岡地区等の賑わい創出と地域全体の再生活活性化を支援する事業を行った。

当社は、天王通り商店街の空き店舗を「まちの駅」としての認定を受け地域の情報発信憩いの場として活用、旧伊達公民館跡地の利用、地域の活動団体との連携や商店街との協力により、各種事業を行うことで伊達地域中心地域の賑わい創出を図っている。

2 理事会等の開催

(1) 理事会

○第 1 回（第 6 回）理事会 平成 30 年 6 月 12 日 開催

議案第 1 号 平成 29 年度事業報告の承認について

議案第 2 号 平成 29 年度収支決算報告の承認について

議案第 3 号 平成 30 年度入会金及び会費について

議案第 4 号 平成 30 年度の収支予算の変更（案）について

議案第 5 号 平成 30 年度通常総会の日時及び場所並びに付議案件について

報告第 1 号 重要事項及び業務報告について

○理事懇談会 平成 31 年 1 月 18 日 開催

1) 31 年度事業について

2) 現施設の賃貸について

3) 30 年度事業について

4) 原っぱの整備事業について

5) 現施設の改修について

(2) 通常総会 平成 30 年 6 月 28 日 開催

(3) 定期監査 平成 30 年 8 月 31 日 開催

(4) 決算監査 平成 30 年 5 月 18 日 開催

【業務の状況】

1 官民連携まちなか活性化事業

地域住民や商店街をはじめとした関係団体と連携し、誇れる地域創出のためにまちなかを活性化する方策や事業等を検討し実施した。

(1) 復興道路と新たなまちづくり事業

- ・復興道路の開通で重要性が増す国道 399 号沿線の活性化のため伊達川東地区協議会が取り組む「農業を活用したまちづくり」を進めるための事業支援を行った。
- ・「天津桃（明治時代に中国から導入された最初の桃で、酸味が強い品種で砂糖煮として食べられていたが、今ではあまり見かけない「幻の桃」）」を活用した 6 次化商品の創作支援をした。
- ・平成 31 年 2 月 28 日に試食会が行われた。今後、協議会は、「天津桃」の原材料としての普及、六次化商品としての販売等の可能性を調査研究することとなる。



(2) 商店街イベント事業

- ・イベントによる商店街への集客UPを図るため、前年度に復活した納涼盆踊りや年末年始事業を本年度も継続実施した。
- ・中央商店街の既存事業や前年度のマルシェ事業等も関係団体と協議し継続実施した。
- ・特にイベントと各個店の創意工夫がマッチするような事業についても調査検討した。
- ・伊達町中央商店会と他の天王通り商店街や伊達地域の各個店が結び付く効果的なイベント事業についても検討し実施した。

①天王通り商店街納涼盆踊り

- ・伊達町中央商店会・長岡町内会、長岡山車保存会・まちづくり伊達の共催事業
- ・事業再開後、2 回目の納涼盆踊りとなった。

《内容》

- 8 月 12 日（金）18：00～天王通りを車両交通規制して行う。
- 19：00 から盆踊り（～20：30）
- 参加者は、300 人以上となった。
 - ・参加者は、各年代の方が参加していた。

- ・特に、若い子育て世代の方も多く、家族で楽しむ光景が見られた。
- ※伊達の川西地区は、新たな造成地が多く若い世代が多いことから、イベント内容を工夫し、若い世代の求めるものを提供することができれば更なる活気を生み出せるものと思料される。
- 様々な年代の参加者が、設置した櫓を囲み、お囃子・唄に合わせて盆踊りの長岡夏の風物詩を楽しんだ
 - 露店や、飲食関係者の協力、事業に賛同する方の協力を得た。



②伊達町マルシェ実行委員会との連携（既存事業支援）

- ・伊達マルシェの支援

○9/15 夜マルシェ

- ・参加者：約400人強、前年度を上回る参加者となった。
- ・事業運営のスタッフとして人的支援や「まちの駅」を出発、ゴール地点として活用した。

(イベントのゴール地点とし、抽選会の会場及び休憩所として提供した。)

○10/9 昼マルシェ

- ・小学生や一般の方の体力測定等を、天王通りを通行止めにして行う。
- ・手作りマルシェや飲食コーナーなども設ける。
- ・事業運営のスタッフとして人的支援
- ・まちの駅をイベント事業の実施場所として提供した。



※ 両事業とも市内・市外から多くの参加者があり、「まちなか」は賑わいを見せた。

しかしながら、効果は一過性のものになっており、リピーターを増やすための工夫が必要なのはこれまでも課題とされている。

商店街と一体となった取り組みにより、商店街の魅力を発信する取り組みが必要と思われる。

○イルミネーション事業への参画（12月9日～翌年2月末日）

・街中の賑わいと年末イルミネーションの魅力を発信するため「点灯式」を行った。

・点灯式には、地域の方が約30名参加し、家族で写真を撮るなどしてイルミネーションを楽しんでいた。

参加者に豚汁を振舞った。

・まちの駅の壁面へ「天王桶」イルミネーション等を設置した。

・イベント広場のイルミネーション装飾の設置や撤去へ協力した。



③商店会のフリーマーケット開催の準備、運営協力（既存事業支援）

・10月20日（土）開催・・・伊達町中央商店会主催

○これまでは日曜日開催としていたが、商店街が開店している土曜日の開催とし、フリーマーケットに来ていただいた方が商店街へ流れるよう対応した。

○事務所をイベント来場者及び関係者の休憩場所として提供した。

○今後計画している「ママノマ」で飲食業等を展開するための社会実験としてメニューの一つと考えている「パンケーキ」の提供をまちづくり会議プロジェクトチームが試みた。大変好評であった。



※ フリーマーケットでも手作りマルシェでも単独での開催では、人を集めることは難しく、カフェや人が注目するようなイベントや、複合集客施設などでの開催でなければ人出は望めない。

現況での天王通り商店街へ人を呼びこむことは、大変困難なことである。商店街も人呼び込む工夫を不断に行い、付加価値のあるゾーンを作り上げることが必要となる。現在計画されている旧公民館跡地の集客施設を拠点として人が回遊できるような仕組みづくりがハード・ソフト両面で行うことが必要である。

官民連携手法を更に検討し、持続可能なまちづくりを進めることが肝要である。

④商店会初売り事業支援

商店会の「初売り事業」を復活し、商店会に賑わいを出すため話し合い、準備・協力を行った。

○12月20日（木）売り出し開始・・・伊達町中央商店会主催

○商店会の会員以外の商店も参加・・・全8店で実施

○1月2日（水）・3日（木）抽選会 まちの駅まちづくり伊達を会場として提供

○12月20日 PR新聞折込み

○抽選会景品として、参加店で利用できる買物券を準備した。

天王賞5,000円…4本 1等賞2,000円…30本

2等賞1,000円…100本 3等賞500円…290本

お年玉賞5円…2,000本

※ この事業は、伊達町中央商店会の主催事業であり、社団が支援し再開2年目となった。これまでの事業経験を基に実施しているが、人的余裕がないこと資金的にも厳しいことなどから参加者の増加には繋がっていない。魅力的な売出し品などの商店側の奮起が期待される。

伊達川西地区は、宅地造成による新たな住民が増えていることから、スーパーマーケット等の大型店にない商店街の良さをアピールしていくことが必要である。

また、周知方法等についても、新聞折り込みだけでなく他の新たな方法の検討も必要である。

⑤ひな祭り事業の実施

3月の「ひな祭り」に合わせ、お客様を天王通り商店街に呼び込むための企画事業として実施した。

○商店街の商店に事業参加への参加を勧奨し（10店）、ひな祭りにちなんだ商品の企画を行い、売出し事業を行った。

○売り出し期間中のお客様に、桃の花と桜まんじゅうを配った。

○「ひな祭り事業期間」・・・3/1～3/2

○まちの駅事務所に、伊達こども園と伏黒幼稚園の園児の協力で作った「ひな

人形」の作品を展示した。

○つるし雛作成の愛好者から、つるし雛を借り受け事務所に飾り付けた。

※ 販売促進のため、桃の花と桜まんじゅうを配付しており、この事業を楽しみに商店に足を運ぶ方も多い。



⑥だて桜回遊事業

4月の桜をはじめとして花が咲き乱れるこの季節に、伊達地域に指定した19か所の桜を楽しみながらめぐり、歴史的なことや新しい何かを発見し、「ふるさと伊達」に関心を持っていただき、明日のまちづくりに繋げていくことを目的に、新たに実施した事業である。

○開催期間 4月1日から4月30日

○参加者は、34名であった。参加者には、サクラスタンプ会のお買物券を進呈した。

※ 目的をもって街を歩いてみると、新しい発見があったという意見が多数見られた。地域の財産を発見する意味でも街歩きのような事業は必要と思われる。

⑦端午の節句事業

5月の「端午の節句」に合わせ、お客様を天王通り商店街に呼び込むための企画事業として実施した。

○天王通り商店街での特別販売事業を商店会の会員とその他の店が参加して（協賛店10店舗）、端午の節句事業に合わせ特別商品（メニュー）を準備した売出し事業を行った。

○売り出し期間中のお客様に、「柏餅」を進呈した。



○端午の節句に併せ、こいのぼりぬり絵展
… 4月25日～5月16日を伊達子ども園・伏黒幼稚園の協力（年中・年長）
を得て行い、その作品はまちの駅 まち
づくり伊達に展示した。



※ 販売促進のため、柏餅を配付しており、3月のひな祭り事業とこの事業を
楽しみに商店に足を運ぶ方も多い。

⑧商店会加入店以外の店舗PR事業

伊達町中央商店会は、毎月15日を「感謝市」として、新聞折込みチラシでPRを行っている。しかし、商店会に加入していない他の商店はPRを行っていないことから、中央商店会のチラシの裏面を社団が編集し社団のお知らせと商店のPR記事を掲載する事業を行った。

実施月 4月・6月・7月・11月・12月・2月

※毎回の広告掲載とはならないが、商店会加入店以外の店舗の四季に合ったPR掲載は、天王通り商店街の一体感の醸成に役立っている。

⑨集客環境改善事業

商店の販売内容、特売内容等を広くお客様に周知すること、商店に楽しく足を向かせる目的で、A型立て看板と木型プランターを希望商店に設置することとした。

このA型看板及び木型プランターは天王通り商店街に設置され、天王通りの美化に役立ち、感謝市等に利用される。配置にあたっては、希望商店から負担金を徴した。

※ A型立て看板の半数は、納品が間に合わず2ケ年を跨る事業となった。A型看板は好評で、毎日の商品紹介にも活用されている。

⑩商店街の先進地研修

伊達町中央商店会では、商店街に客を呼び込み、賑わいを創出するために「一店逸品事業」を事業計画に挙げている。この先進事例として、二本松市の商店街を視察研修した。

二本松市では、二本松市商工会議所に「一店逸品運動推進委員会」を置いている。

現在の加盟店は、14店舗であり、食品関係が6店、物品販売関係が8店である。

二本松市の商店街のメインストリートは、延長が長く古くからの和菓子店、銀行や飲食店などがあるが、他商店街の例と同様にシャッターを降ろした店舗が目立っていた。

一店逸品運動の参加店には、目印の「のぼり旗」が掲げられ一目で確認することができる。一店逸品の商品は、それぞれの店舗で工夫を凝らし、会員同士が論議、吟味した商品が並んでいた。



※ 二本松の会員店舗は、それぞれに販売・陳列に工夫していることがうかがえた。会員相互に、他店の逸品や店舗の陳列などを議論しているという。会員の本気度が感じられた。

(3) 起業者・後継者育成事業

店舗展開など起業化を目指している人・団体の支援をする。

① 手作りパンの委託販売

地域で材料にこだわり、食パンや菓子パン等を制作販売している方と協議し、将来の起業への展開を見据えて、実験的にまちの駅で委託販売している。販売日は、土曜日だけである。

※ 起業化に向け研鑽しており、販売品のレパートリーも増やしている。商店街での起業に向け支援している。

② 子育てママの団体に事務所一部を無償賃貸

子育てママが子育てや働き方を考え、ふるさとづくりに貢献したいという思いで設立した「Life for Mathers」に無償賃貸している。

民間団体の補助事業等を資金源に、大人も子供も支え合い、幸せを感じる社会を目指し、話し合いの場、学びの場、働く場を作っていくことを目的としている。

※ 当社団の設立目的の官民連携を地で行くこの団体の活動に期待をしている。地域において起業し、子育てママが住みやすいまちづくりに貢献頂きたい。

2 官民連携まちなか再生社会実験事業

まちなかの賑わいを創出するため、平成29年5月から天王通り商店街の空き店舗を賃借し、公共用地や商店街周辺地を活用した様々な事業を検討し、地域住

民が楽しみ、会話し、休憩し回遊できる地域・商店街とするための「場」の創設のための社会実験を行っている。

(1)法人事務所運営事業（まちの駅 まちづくり伊達）

社会実験の効果を一層高めることを目的に「まちの駅」の認定を受け、地域住民が楽しみ、会話し、休憩できる場所として、どのように運営し何が必要なのか、まちなか再生のための社会実験を進めた。

事務所での事業と併せ、旧公民跡地のまちなか原っぱを活用した事業等も検討・実施し、まちなかの賑わいを創出していく。

①多目的に多くの市民の方に利用いただける空間としての取り組み

市民が求める気軽に楽しく利用できる施設となるには何が必要なのか検討し、休憩スペースの確保（テーブル・イス・お茶、コーヒー等）や、楽しめる器具（卓球台・健康運動器具）を設置し利用状況の検証をしている。



※ 主目的が、休憩施設であるので常時活用されている状況はないが、街で久しぶりにあった人が休憩、会議の後にコーヒーを飲みながら談笑と定型施設でない和みがあるように思える。

また、小・中学生が、放課後の居場所として利用している。また、春休みや夏休み等の長期休業時も、特に利用者が多くなっている。

②卓球台の設置については、親子や夫婦の方々が散歩の途中で楽しんでいる。また、小中学生も放課後、ゲームや卓球を通し仲間作りをしている。

※ 毎週、グループが歩いて街なかの、この施設を訪れる。卓球しながら歓談し、散歩、小運動、コミュニケーションと健幸都市を実践している。

リーダーの役割とこのような施設（気を遣わず休める処）があることが、このグループの活動が継続している理由のようだ。

③市立図書館の「伊達文庫」や市民から提供を受けた図書を置き、市民に提供している。

※ 絵本等の利用を期待しているが、思うようにいかない。子どもと一諸に読めるスペースなどを今後検討したい。

④市民からの寄贈図書のご案内及び貸し出しをしている。自由に借りることできる図書として、利用者から好評を得ている。

※ 新築や改修などで処分しようとした図書であるが、歴史物、文庫本が思わぬ人気である。



⑤まちの駅としての情報発信

まちの駅の認定を受け、情報基地として各種の情報収集に努めている。行政情報や各種フリーペーパーを備えている。日経新聞も一日遅れの新聞として置いている。

※ いろんな情報を収集するために来所する方々もいる。今後も多くの情報を収集するよう努めたい。しかし、一日遅れの新聞を読む方は、ほとんどいない。

⑥街・だての発行

「まちの駅 まちづくり伊達」の事業内容を広く市民へ周知するために「街・だて」として情報発信している。

方法は、商店会が発行する感謝市チラシの裏面やイベント周知チラシ等活用してまちの駅のイベント等を発信している。



2019. 3. 15 発行

※ 新聞折り込みで発信しているが、他の方法による発信も検討している。

⑦ホームページによる情報発信

社団の情報をホームページで発信している。行事やイベント情報の発信も心掛けている。

※ 行事やイベント情報について、新聞折り込みだけでなく幅広い発信を目的に掲載するようにしたが、掲載が遅れており、今後、スピーディに掲載していきたい。

⑧まちの駅の黒板掲示板で商店街等の情報を発信

まちの駅の入り口に黒板の掲示板を設置し、商店街の日替わり情報やおすそ分け市場情報、イベント等をPRしている。

※ 手づくり黒板で日替わりの商店街情報等を発信したことにより、商店街への照会や誘客が進んでいる。

⑨地域団体への集会場所の提供

(長寿会・地域福祉会・町内会・祭り実行委員会等)



社会実験として、賃料や時間なども緩やかに場所の提供をしている。

※まちの駅周辺の町内会や関係機関が会議等で数多く活用している。

賃料などについては、今後の検討課題である。

⑩ハンドメイドレンタルボックスの設置

ハンドメイド作品を「ハンドメイドレンタルボックス」を設置し、展示している。

また、購入希望者には、委託販売をしている。

レンタルボックス利用者…4名

※ レンタルボックスの賃料と販売手数料を頂いている。



⑪おすそ分け市場の実施

朝採り野菜等地域の野菜を地域の皆様に提供し、商店街に足を運んで

もらうための事業として、事務所の中に売り場を設け委託販売している。現在、4名が野菜等を出荷している。ほぼ毎日、少量ではあるが販売しており、楽しみに訪れる方が増えている。

価格とパッケージの量から高齢者の方には特に好評である。

※ おすそ分けの考えに共鳴いただき、新鮮で安価な野菜等が出荷されている。野菜の買物から、まちの駅でちょっと休憩していただく、そんな光景が増えている。販売手数料を頂戴している

⑫まちの駅を活用してのイベント等の開催

まちの駅を活用して各種団体・グループ等のイベント開催を支援している。イベントによっては、年に数回開催するようになっている。

(ア) 商店街の商店主催イベント

ワークショップ等の開催を勧奨しており、12月に商店街の花屋さん主催でハーバリウム体験教室を実施した。



※ 市民ニーズを的確に捉えたワークショップ等のイベントを、今後も開催していきたい。このような中から商店と市民が繋がっていくものと思われる。各商店のプロの知識によるワークショップ等を検討していく。

(イ)すまいる&みゅーじっく ミニコンサートの実施

音楽で街を元気にしたいという地元の音楽愛好家グループと連携して年3回実施した。

会場づくりから音響関係まで、すべて実施 団体で対応する手作りのコンサートである。



※ イベント等により人の流れが出来るると商店街で食事するなどの域内の経済効果もある。

(ウ)「碁の時クラブ」「囲碁を楽しむ日」のイベントを実施

「碁の時」として、毎週金曜日の午後に囲碁の講習会が開催されている。これは、このクラブの主宰者と連携し、囲碁の経験者と初心者が、一緒に囲碁の楽しさを学ぶことを期待している。

これは、起業支援の一面もある。

また、本年3月に「囲碁を楽しむ日」のイベントを開催、囲碁の愛好者などが参加しクイズや対局が行われた。



※ 主宰者が主体の事業として行っている。イベントは、主宰者と協議して本年初めて実施した。

市民が持っている思いを形にすることも、まちづくりの大きな力となる。

(エ) まちなかワイナリーのイベント共催

伊達市産のブドウから作ったワインの試飲会が、3月3日(日)まちの駅を会場に行われ、市民も多く参加した。

これは、伊達市が福島学院大学情報ビジネス科に事業委託した事業として行われたもので、事務所南側の下屋部分をイベント会場とするため、学院大の学生などが手づくりで改修した。建築の専門家も入り行われ見違える空間となった。



※ およそ10日間にわたる学生の準備作業であったが、商店街に若者が行き交うことで、近隣住民も関心が高まった。

この下屋の新たな空間を利用した、今後の事業企画が急務である。

⑬事務所を活用しての社会実験事業への取り組み

市民から要望が多いカフェの設置に向けまちづくり会議等で協議を重ねてきたが、旧公民館跡地の新たな展開までの間、まちの駅でカフェ等の営業に向けての施設整備や什器の準備を進めた。

施設については、県北保健所の指導の下飲食業許可施設に向け給排水設備工事を進めた。

また、カフェプロジェクトチームによるカフェ実施に向けた什器の検討や客席について協議を続けた。客席については、3月に入り福島学院大学の木村教授やアサノコウタさんの支援を受け改修する方向で協議に入った。

※ 既存の小売業施設に飲食業許可施設を限られた時間と予算で作ることは、困難と思われたが、協議の末、既存の台所やトイレを活用して改修する目途がついた。

多くの市民が楽しみ利用できるカフェを、試行錯誤しながら見つけていく。

⑭手作りパンの委託販売

地域で材料にこだわり、食パンや菓子パン等を制作販売している方と協議

し、実験的にまちの駅で委託販売している。

販売日は、土曜日だけである。

※ 限られたパンだけの販売となっており、市民からはレパートリーを増やして欲しいとの要望が多い。商店街で起業できるよう支援を続けていく。

⑮まちの駅2階スペースの活用

この施設は、従前は洋装品の小売業をしており、併せて住居としても利用されていた。このため、2階の住居スペースが空いていた。

空きスペース借用の依頼があり、当方の貸主と協議し、当社団で賃貸することとした。

○11月から、イオン伊達事務所として有償賃貸している。

○3月から、「Life for Mathers」に無償賃貸している。

※ Life for Mathers に対しては、活動状況や今後の活動計画などを参酌し無償で賃貸することとした。

⑯公的事業への参画・協力

- ・福島県事業「クールシェア」に登録
- ・福島県事業「ウォームシェア」に登録
- ・伊達市チャレンジデーの受付所
- ・絵本「すてきなニットやさん」の販売

⑰まちの駅の玄関に黒板掲示板を設置

まちの駅の入り口に黒板の掲示板を設置し、商店街の情報やおすそ分け市場情報、イベント等をPRしている。

この情報発信により、おすそ分け市場の新鮮野菜やのパン販売にも繋がっている。

※ 手づくり黒板に新鮮情報をチョークで毎日書き込むことで、まちの駅に入ってくる方も多いため、集客や広告のヒントになった。

(2) 天王市事業

昔ながらの地域の「天王市」の再興を図り、ものづくりや地域の新鮮な野菜の販売などの「市」を開催し、商店街を回遊できるような賑わい創出事業を実施した。

本年は、地域のシンボルでもある八雲神社の境内等を利用した天王市の開催を進めた。しかし、当日の天候により規模を縮小し事務所での開催となった。

①端午の節句 天王市事業

5月5日(土)八雲神社の境内を会場として計画した。アクセサリー、手編みのかごや手作りパンを作っている方に参加依頼したが、雨天のためまちの駅での「天王市」開催となった。

※ 手づくり制作している方が、集まらないのが現状であった。ある程度の集客実績か、多数が参加するイベントでないと難しい。

規模等についての妥協し地道な「天王市」を目指すことも選択肢である。また、原っぱ事業、商店街感謝市事業等との連携事業を検討する必要がある。

②七草祭の七草粥事業

熱田・八雲神社の1月7日に実施される七種祭の伝統行事に併せて、早朝から七種粥を振舞った。

※ 伝統行事を盛り上げる事業に、来訪者からは賛意が寄せられた。

③地域資源のシンボル設定事業(天王祭・盆踊り等でTシャツ等の販売)

「天王桶」や「天王様」と「天王桶」、「生糸」を地域振興のシンボルとして位置付けるため、そのデザインを活かし「Tシャツ」「トートバッグ」を作成販売した。

販売や各種イベントの景品として提供することで、長岡地域の歴史を背景とした賑わいのシンボルとなるよう事業を展開した。

※ 販売は、価格設定で難しかった。各種の大会等の景品として利用いただいた。

(3) まちなか原っぱ事業

旧伊達公民館跡地を芝生化し親子や子どもたちが伸び伸びと遊び、そこから商店街まで回遊できるような仕組みを目指す事業を社会実験事業として行った。

芝生化や板塀設置では、市民の参加を求めた「参加型のまちづくり」を進めてきた。

明けて3月以降は、原っぱ事業を「原っぱ de ランラン」事業と銘打ち、第2、第4土曜日にボールなどの遊具を開放し親子で伸び伸び遊べる事業を展開した。

①原っぱ造成・芝生化事業…5月27日(日) 参加者総数48人

旧伊達公民館跡地を地域の交流の場として利用するため、29年度に策定した「伊達まちづくり活性化事業計画」に基づき芝生化した。伊達認定こども園

の保護者に協力依頼し、親子16組の参加を得た。



※ 作業終了後、商店街で買い揃えた食材でBBQを親子等で楽しんだ。

②原っぱ（芝生）周辺整備 11月18日（日） 参加総数30名



原っぱの南側に板塀を設置し、目隠し効果とボール等が原っぱ以外に飛び出さないよう対策を講じた。

作業は、支柱に防腐剤を塗装した板を張るもので、伊達認定こども園の保護者の協力により実施した。

※ 終了後、商店街で買い揃えた食材で豚汁をつくり労ねぎらった。

③原っぱ（芝生広場）の開放

3月以降は、第2・第4土曜日に、ボールなどの遊具を開放して原っぱを開放する「原っぱ de ランラン」事業を実施している。

原っぱ周辺の整備と併せて「木登り丸太」や「腹筋ベンチ」を設置した。今後、原っぱのシンボルとしてPRしていく。

※ 原っぱから商店街への回遊、商店街との連携について研究中である。



④ 原っぱの遊ぶ環境づくり事業

芝生化し、子どもたちを迎える事業を実施するなかで、手洗い場とトイレの課題が多く出され、原っぱ周辺の整備事業の進捗状況などを加味し、手洗い場の設置と仮設トイレを設置することとした。小さな子や親子で遊ぶことから、男女別で子育て親子に配慮したトイレを設置することとした。

※ 仮設トイレの設置については、建築確認申請に手間取り事業年度を跨ぎ2ケ年の事業となった。

3 官民連携まちなか再生推進事業

「伊達地域まちづくり基本計画」に基づく基本構想・アクションプランにより、天王広場とまちなか高齢者住宅について、整備イメージを検討・作成した。

(1) 天王広場事業

伊達地域の中心である旧伊達公民館跡地、福島信用金庫伊達支店周辺、熱田・八雲神社を連携させた天王広場の創設を目指すための計画である。

これには、老朽化してきた福島信用金庫伊達支店の建て替えも考慮し商工会支所や行政の証明書発行拠点など公共施設とのコラボレーションを目指した拠点施設の併設も検討し整備イメージを作成した。

《天王広場整備の方向性》

天王広場の整備にあたっては、長岡分岐点の角地にある福島信用金庫伊達支店のありかたが大きく影響する。今後予想される支店建物の更新時期に合わせ、福島信用金庫の理解と協力を得ながら、広場との一体的な整備が望まれる。

①信金の建物更新と広場の整備

信金の建物更新を信金敷地内で行い、現状のイベント広場を含め拡張して天王広場を整備する。

②天王広場と信金敷地交換案による整備

広場と参道、分岐点を一体的に整備するため、信金建物を北側に整備し、参道及び旧道に面して広場を整備する。

③参道整備案

熱田、八雲神社を結ぶ動線上に天王広場を位置づけ、線状の縁日的な祝祭空間を整備する。

□整備イメージは別紙参照

※ 事業主体となる伊達市、計画区域内の福島信用金庫伊達支店同じく地権者等の理解がないと進まないが、伊達地域の中心地であり天王祭に象徴される歴史的な地区でもあるので、関係者の協議を重ねながら実現に向けた。

(2) まちなか高齢者住宅事業

歩いて買い物ができるよう天王通り商店街の機能を充実させ、商店街の 300 メートル範囲内に官民連携による“伊達市らしい”高齢者住宅について、設計者や建設関係事業者、民間で検討した。併せてまちなか高齢者住宅の建設の可能性を検証した。

① まちなかに高齢者住宅建設の可能性について

高齢化が進み、高齢者が外出する場合の足は、自家用車を利用する人が非常に多い。この自家用車の利用についても年齢的な限界があり、自家用車を利用しなければ日常的な買物は、配達等に頼らなければならない。

これは、買い物に限らず医療、介護等の場合も同じで大変不便をきたすこととなる。

これら解決には、商店街や医療機関の周辺に居住すれば解決することとなる。しかしながら、このようなまちなか居住についての課題も多い。

- ・まちなかは地価が高く、居住可能なアパートは少ない。
- ・アパートは、一般人の対応で高齢者対応は少ない。
- ・高齢者のアパート居住について、入居手続き等が厄介である。
(高齢者の入居を拒む傾向がある。)

このように、高齢者の増加や独居、高齢世帯の増加に対応する住宅の建設が進んでいる状況にないのが現状である。

まちなか高齢者住宅の供給は、サービス付き高齢者住宅（サ高住）など付加価値が高く家賃も高い、住宅の供給が民間サイドで行われている。

地域内の所得水準などを考慮すると、上記のサ高住などへの入居は困難であり、行政が積極的に高齢者住宅施策を進めなければ建設は難しいと思われる。

また、それには高齢者居住に配慮した住宅の工夫（次項）や介護保険外の介助サービス等の付加価値が必要と思われる。

② “伊達市らしい” 高齢者住宅について

伊達市では、平成 27 年度の掛田地区高齢者共同住宅を建築した。この高齢者共同住宅のノウハウと建築の振り返りを加味した、下記のような高齢者住宅が望ましい。

- ・高齢者世帯に限らず多世代交流ができる共同住宅
- ・独居、高齢2人世帯等に配慮した間取りの住宅
- ・買い物や医療機関に歩いて出掛けられる距離にある住宅

このような住宅は、住宅建設・経営者側から見れば、建設費が嵩み経営的なメリットが少ないことから、民間での整備は困難である。

そのことから、前述同様、行政が積極的に高齢者住宅施策を進めなければ建設は難しいと思われる。

※ 民間での高齢者住宅建設は、難しいとの方向であるが、伊達地域には天王通り商店街に面した場所に一群の空き地が存在する。個人所有の土地ではあるが、行政の大きな支援があれば、多世代複合型の共同住宅の建設が可能ではないかと思われる。

□高齢者住宅に係る整備イメージは別紙参照

4 健幸に満ちた誇れる地域づくり、まちづくり事業

市民の意見反映から行動へのプロセスが重要であることから、若者や新住民も巻き込み、地域住民等からの、地域関係機関、行政からの要望事業で当団の目的に沿う事業等について調査検討する。

① 子育て世代のママで構成する“Life for Mathers”に「子育て世代の商店街像を探る業務」について業務委託し、伊達地域に居住する子育て世代のママの消費意識や地元商店街への要望等を調査し、子育てママが描く商店街像を探った。

○ 子育てママのネットワークを活用し、聞き取りやアンケート調査などから商店街の課題等をまとめ併せて提案も受けた。

(商店街の課題)

- ・シャッターが閉まっていて、店なのか家なのか判別できない。
- ・店舗の認知度が低い。
- ・どこが商店の駐車場か分からない。
- ・子どもたちだけで行ける場所（公園や駄菓子屋、学用品など）が欲しい。
- ・パン屋、ケーキ屋、カフェ、居酒屋などの小規模飲食店があれば良い。
- ・入りやすく、清潔な店舗づくりが必要である。
- ・親だけでも親子でも寛げる場所が欲しい。

- ・子育て世代のお台所支援隊になって欲しい。(偏った食生活の改善、持ち帰り総菜の充実)

(天王通り商店街の良い点)

- ・親しみを持って対応してもらえる。
- ・ニーズにあった親切な対応をしてくれる。(刺身盛り合わせ、花束)
- ・店の人との会話、ふれあいがあり良い。
- ・調理法なども教えてもらえる。
- ・新鮮で安く、美味しいものがある。

※ 調査結果や提案を精査し、今後の事業や31年度以降の「ママのマ」建設に向けた組織づくりなどに役立てていくことにする。

□子育て世代の商店街像を探る業務報告書は別紙参照

特記事項

平成 31 年度の伊達地域まちづくり活性化事業の進捗状況

伊達市が平成29年3月に策定した「伊達地域 まちづくり基本計画」に基づきまちなか再生のための、伊達まちづくり会議での協議内容を取りまとめた平成30年3月に「伊達まちづくり活性化事業」として基本計画を取りまとめ、これに基づき事業が、平成30年度伊達市一般会計予算に計上された。

1 「伊達まちづくり活性化事業」の概要

伊達地域の天王通り商店街周辺の熱田、八雲両神社の歴史的なエリアと旧伊達公民館跡地を活用しハード・ソフトの整備を検討し賑わいの創出を進めることとされた。

①旧伊達公民館跡地の活用

仕事をしながら、お母さんと子どもたちが一緒に過ごせる、ふらっと立ち寄りたくなる、みんなのたまりの場のような場所として仮称「ママのマ」の施設と原っぱとする。

②商店街空き地の有効利用

県道（福島・桑折線）と旧伊達公民館跡地を結ぶ空き地についても「ママのマ」と「天王広場」をつなぐパティオの役割を持たせる。

③天王広場の創設

福島信用金庫伊達支店とイベント広場を含むエリア（熱田・八雲神社、旧福島電鉄の分岐点という歴史的にも賑わったエリア）を「天王広場」として位置付け、市民が天王通り周辺を回遊し、市民がわくわくする場所とする。

④官民連携による事業推進

これら開発、運営事業は、行政に全てに頼ることなく行政や市民、団体が2人3脚で官民連携を色濃く出して進める。

事業推進のため団体が市から「都市再生推進法人」の認定を受けるなどの手法の検討も急務である。

2 平成30年度の進捗状況

年度当初、上記の内容により事業概要の説明を行い進めることにされたが、その後、行政内部において事業の進め方で細部の協議が繰り返し行われた。

①旧伊達公民館跡地利用に係る協議

震災後危険建物として取り壊された伊達公民館の跡地は、利用計画が進まず雑草が繁る状況にあった。このため、前述の計画により原っぱと仮称「ママのマ」の施設整備を計画し、その方向で予算化された。

しかしながら、建設についてのコンセンサスが未了であるとのことで、結果的に31年度予算編成時期まで、この協議結果がずれ込んだ。

これにより、団体の存在意義をはじめとした基本的事業の展開に大きな影響を及ぼした。

②都市再生推進法人への取り組み

社団が都市再生推進法人の認可を受けてまちづくりを進め、資金確保の狙いもあったが、事業委託先であった(株)ワークヴィジョンズを窓口国土交通省と協議したが、ハード事業への支援は困難であるとのことから、この取り組みについては見直すこととされた。